

そのむかし、中国は漢帝国を築いた、劉邦は、「張良、蕭何、韓信の三人はいずれも傑物と言ってよい。わしはその傑物どもを使いこなす事ができた。これが天下を取れた理由だ。」と語ったと言いい、また「鋼鉄王」といわれたA・カーネギーの墓には、こう刻まれているといいます。「自分より賢き者を近づける術知りたる者、ここに眠る」と。

いい人材が欲しい。いい人に出会えないと嘆く経営者も多いかと思えます。

では、いい人材とは、あなたにとってどんな人材なのでしょうか？

いい人材=なんでも言うことを聞くイエスマン。と知らず知らず、否、故意にそういう人を側近にしている経営者も多いのではないのでしょうか？

こんな経営者を知っています。「自分より学歴の高い奴は入れたくないんだよね」「自分より年上の男は雇わない」

どう思います？

いい人材を求めるには、自分にはないもの、苦手だなと感じる人ほど採用してみるのもいいかもしれません。

さて、自分の周りは？というとスタッフ然り、嫁さん然り。完全に転がされる経営であります。

まあ、経営者として、未熟と言われれば未熟なんです、その未熟さも僕の武器であります。

今回は、いい人材だと思った時の経営者の心構えを書きたいと思えます。